

夢に向かって

たくさんの経験が夢を叶える——

宇野 ^{らすた} 羅沙佑 さん (県北中3年)

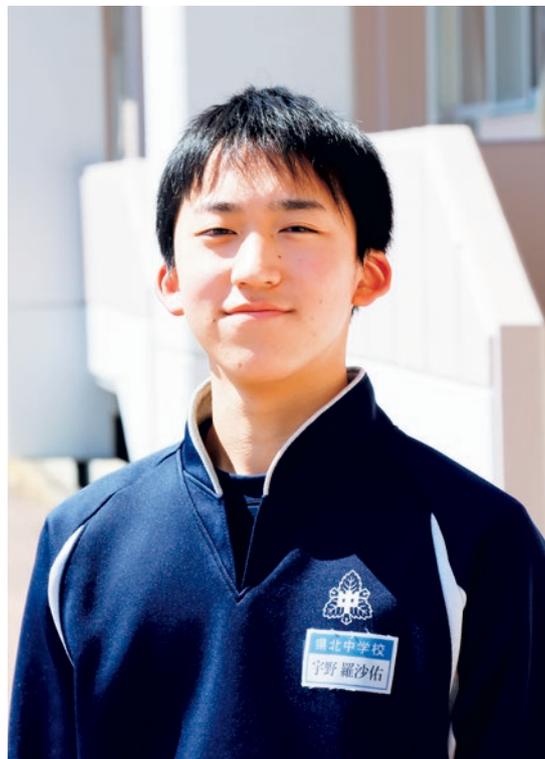
僕の夢は医師になることです。何科の医師を目指すかはまだ決まっていますが、病気で困っているたくさんの人を助けたいと思っています。

今ではだいぶ体が丈夫になりましたが、小さい頃はよく体調を崩して病院に通っていました。辛いときに優しく接してくれたり、病気の人たちのために尽くす医師の姿に強い憧れを持ち、将来は医師になりたいという気持ちが芽生えました。患者さんのことを第一に考え、一生懸命に仕事をする姿を何度も目にしたことが、医師を目指すきっかけになっています。

医師になったら海外に行き、自分の知らない世界をたくさん見て体験し知識を深め、いろいろな経験をしてみたいです。海外でしっかりと経験を積んだら日本へ戻ってきて、それまでの経験を生かしてたくさんの人を救いたいと思っています。

県北中学校をより良くしたい、という思いから生徒会長に立候補しましたが、人との関わり方やまとめ方、大事な場面での判断力などを実際に学び、将来に役立てることもできると思いました。

夢の実現のためには、勉強も頑張らなくてはいけないと思っています。志望する大学へ進学すること、海外で仕事をするためには英語力が必要なので、特に英語の学習には力を入れたいです。これから先、いろいろと困難なこともあると思います。ですが、一つひとつ乗り越えて夢を叶え、知識や技術を身に付けることはもちろん、患者さんに信頼される医師になれるよう頑張りたいです。



生徒会長を務める宇野羅沙佑さん。「いろいろなことに挑戦し、夢の実現のためにがんばります」と話してくれました。目を輝かせて夢を語る姿はとてもしつこく、「夢はきっと叶う」と確信することができました。



町長
コラム

ま
真 ころむ

【第9回】

「助けてください」と言う勇氣

地震直後から最も気がかりだったのが障がい者や一人暮らし、高齢二人暮らし世帯のこと。民生委員、町内会長、消防団が声掛けしてるとはいえ、生活再建のための家財の片づけはできるのか、災害ゴミを処理場まで運べるのか、配ったシートは誰が屋根に掛けるのかと。一時、自衛隊派遣要請も考える。規模が掴めず断念。併せて震災と原発事故からずっと国見町を応援してくれている自治体に「応急資材が不足。助けてください」とお願いすることに。初めて。逡巡。でも栃木の茂木町は夕方に町長自身が、岩手の平泉町は総務課長が、岐阜の池田町は近隣自治体にも呼びかけ、夜通し車を走らせ、届けてくれる。北海道のニセコ町は物資と一緒に職員を派遣。国会議員も頑張る。愛知と横浜のボランティアが来る。何度も国見町を訪れた人たちは災害寄付を。そして茂木、ニセコ、池田、平泉は28日から2週間、り災調査を担う職員の派遣も。ありがたい…。決して忘れない…。

保育所と幼稚園を除く町職員は104人。でも他所に力を貸してくれる人たちがいる。「助けてください」と言う勇氣の大切さを知る。



▲応援職員の皆さん (28日撮影)

引地 真